

財務ハイライト

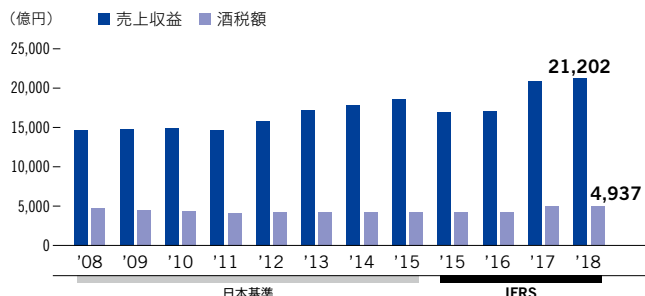
アサヒグループホールディングス(株)及び連結子会社
12月31日に終了した各会計年度

売上収益／酒税額

2兆1,202億円

(売上収益)

国内酒類事業がビール類の市場縮小などにより減収となりましたが、欧州を中心とした国際事業の大幅な増収などにより、トータルで増収を果たすとともに、安定的に酒税を納付しました。

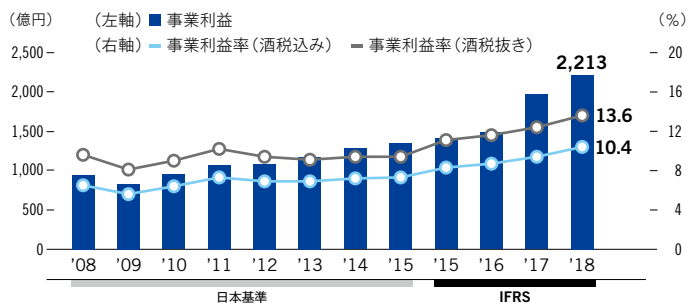


事業利益^{*1}／事業利益率

2,213億円

(事業利益)

主に酒類事業が減益となりましたが、欧州が好調な国際事業の大幅な増益などにより、トータルで増益を果たし、事業利益率も着実に向上しました。

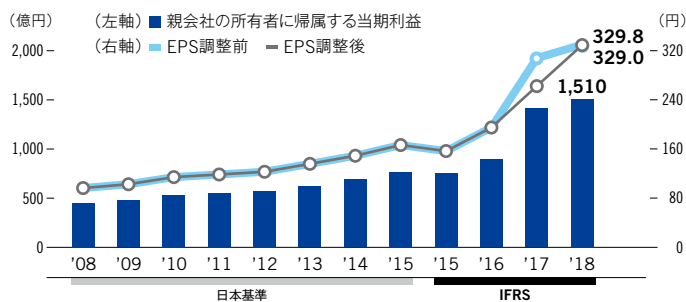


EPS^{*2}／親会社の所有者に帰属する当期利益

329.0円

(EPS調整後)

親会社の所有者に帰属する当期利益は、事業利益の増益に加えて、中国子会社の時価評価益の発生や事業統合関連費用の減少などにより増益となり、EPSも向上しました。

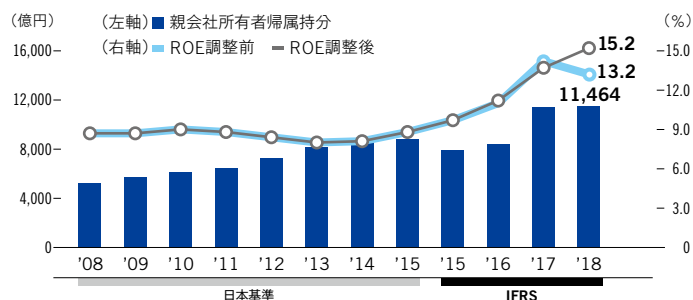


ROE^{*2}／親会社所有者帰属持分

15.2%

(ROE調整後)

各事業の「稼ぐ力」の強化に加えて、増配などによる資本効率の向上により、調整後ROEは、「中期経営方針」のガイドラインを上回って向上しました。

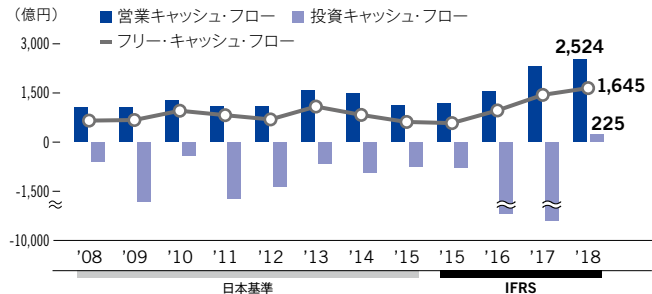


キャッシュ・フロー

1,645億円

(フリー・キャッシュ・フロー)

フリー・キャッシュ・フロー*3は、欧州事業を中心としたキャッシュ・フロー創出力の向上により増加し、投資キャッシュ・フローは、前期の中東欧ビール事業の買収の反動により大幅に減少しました。

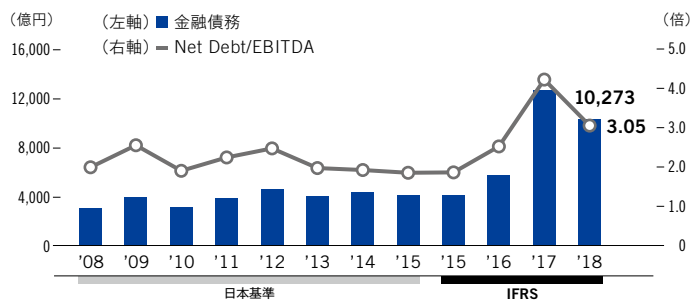


金融債務 / Net Debt/EBITDA*4

3.05倍

(Net Debt/EBITDA)

本業でのキャッシュ・フロー創出力の向上などにより投資余力を高める債務削減を推進し、Net Debt/EBITDAは低下しました。

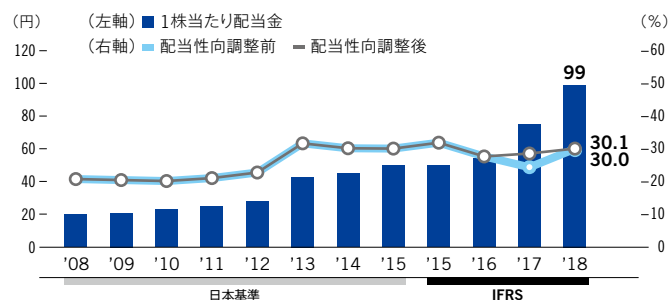


1株当たり配当金 / 配当性向*2

30.1%

(配当性向調整後)

1株当たりの配当金は24円の増配を果たしました。また、連結配当性向は、「中期経営方針」に基づき、2021年までに35%に引き上げていく方針です。

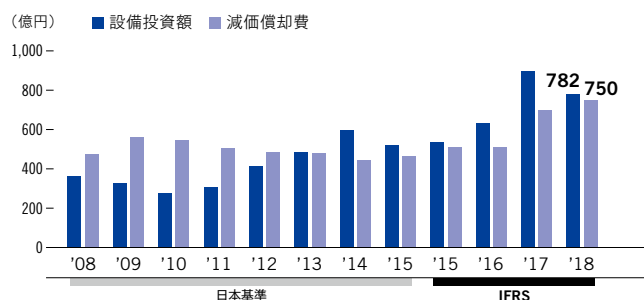


設備投資額*5 / 減価償却費*5

782億円

(設備投資額)

設備投資は、国際事業が「アサヒスーパードライ」の生産強化により増加しましたが、前期の飲料事業の自社製造比率向上に向けた投資の反動などにより、トータルでは減少しました。



*1 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除した恒常的な事業の業績を測る利益指標です。

*2 EPS、ROE、配当性向については、調整前・調整後の数値を掲載。調整後は、事業ポートフォリオの再構築や為替変動など一時的な特殊要因を除くベースとなります。

*3 フリー・キャッシュ・フロー＝営業キャッシュ・フロー±有形無形固定資産の取得

*4 国際会計基準 (IFRS) : EBITDA＝事業利益±無形資産償却費±減価償却費

日本基準 : EBITDA＝営業利益±のれん等償却費±減価償却費

*5 設備投資額及び減価償却費には、リース資産及び子会社取得時、商標権は含まれません。